

目指す学校像・ 育てたい生徒像	・生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばし、地域の教育、文化の拠点としての役割を果たすことができる信頼される学校。 ・自立した市民として豊かな個性と高い志を持ち、社会の担い手として活躍できる生徒。
--------------------	---

(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 確かな学力の向上に向けて、授業内容の更なる工夫および改善を図る。
	2 生徒の自己確立を促し、将来に向けた進路希望の実現を図る。
	3 規範意識を高め、良き社会人として地域に貢献できる力を育成する。

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
ホームページ、学校評議員会、育友会総会等の機会を活用して公表。

自 己 評 価							
重 点 目 標					年 度 評 価（2月10日 現在）		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	授業態度は比較的落ち着いている。生徒は学力差が大きく、進路志望も多様である。 一人一人の進路目標に対応し、充実した学校生活を送り、主体的に学びながら成長できる環境づくりや家庭学習の充実が必須である。	より良い授業を構築する中で、生徒の意欲や態度などを多面的・多角的に理解する工夫ができているか。 生徒の学力を伸ばすため、家庭での学習時間確保等の具体的方策が講じられているか。	・学習環境の整備。 ・教科等教育法研究事業と関連づけた研究授業等の実施による教員の授業力の向上。 ・生徒による授業評価を授業改善に生かす具体策の検討。	・普段の清掃は行き届いているか。 ・生徒が学びやすい環境が整備されているか。 ・研究授業の実施と授業力向上に結びつく研究協議の実施。 ・全教員が生徒による授業評価実施。	・生徒数は少なくなったが、生徒たちは勤労・奉仕の精神に溢れており、隅々まで清掃が行き届き、学習環境が整備されている。 ・教科等教育法研究授業の一環として、国語科、地歴公民科で言語活動の充実を盛り込んだ研究授業を実施した。 ・近隣高校等を巻き込んだ小論文研修会を実施した。	B	・来年度、さらに学級数が減り生徒数が少なくなることから、清掃区域の見直しが必要となる。 ・研究授業については、各教科ともICTを活用した言語活動を盛り込む授業改善がなされており、職員全体への情報共有が望まれる。
2	進学や就職等、生徒の進路実現について一定の成果をあげている。 生徒個々の進路実現に向けた系統的なカリキュラムの編成、授業内容の精選や授業方法の改善に組織的に取り組むことによりさなる学力向上に取り組むことが今後の課題である。	3年間を見通した系統的なカリキュラムおよび授業内容となっているか。 生徒の自己確立を促し、自らの将来を見据えることができる力をつけているか。	・基礎基本から発展応用まで生徒個々に応じた学力向上を図り、生徒の進路実現に結びつける。 ・個人面談や保護者面談によるキャリアカウンセリングの実施。 ・総合的な学習の時間やキャリア講演会等、生徒の自己確立を促す取組の実施。	・校内基礎学力テストおよび各種補習の実施。 ・サテライト講座の開講。 ・三者面談の実施。 ・就職主任、就職指導員との面談。 ・「ESD」「世界遺産教育」「防災教育」等に取り組むことにより、自己確立を促す。	・校内基礎学力テストや進学対応模擬試験を実施し、生徒個々に応じた学力向上を図り、生徒の進路実現に結びつけることができた。 ・ESD体験学習や世界遺産フィールドワークをジオパークガイドと連携した形で実施することができた。 ・インターンシップについては7月に希望者を対象として実施した。生徒個々の意識が高く各事業所から高い評価をいただいた。	B	・教員数の少ない職場である利点を活かすため、模擬試験等の生徒の成績データを全職員で共有する必要がある。 ・ESDの取組については、南紀熊野ジオパークと連携した形での展開も考える余地がある。 ・情報セキュリティ及び人権教育の位置づけとしてLINE株式会社による講演会・教員向け研修会を実施した。生徒には概ね好評であったが、教員の意識の濃淡が浮き彫りになった。
3	大部分の生徒は真面目に高校生活を送っており、遅刻等もほとんどない。 ただ一部に、支援を必要とする生徒が存在する。 全職員が一致協力し家庭や地域と連携しながら粘り強く指導していく必要がある。	校内外において身だしなみやマナーが守られているか。 校内では、校則や社会規範を守らせるよう努め、市民性を育む取組がなされているか。	・毎朝の校門指導（遅刻防止、身だしなみ、あいさつ指導） ・定期的な服装、頭髮点検。 ・定期的な駅（列車）指導 ・授業開始時に行う身だしなみ指導。 ・防災教育を通して生徒の「自助、共助、公助」の意識を高める。	・指導強化週間等の設定による重点指導の実施。 ・服装、頭髮点検時に指摘される生徒の減。 ・特別指導件数の減。 ・高校生防災スクールを和歌山大学、J R 西日本、地域や小学校と連携した防災教育として実施。	・毎朝の校門指導を生徒指導部長が中心になって実施した結果、遅刻が激減した。 ・特別指導件数は年間を通して1件であった。 ・高校生防災スクールを各機関と連携して実施した。	B	・毎朝の校門指導による声かけによって生徒の状況を把握し、個別の指導に活かせることから、今後も計測した取組が効果的である。 ・各機関と連携した高校生防災スクールの取組を通して生徒の自己効用感の実現に繋げることができる。

学 校 関 係 者 評 価
文化祭や体育祭等で随時実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
文化祭、体育祭、マラソン大会等でお越しいただいたり、事業に協力いただいた方々から、ご意見をいただいた。 ・すべての生徒が一所懸命に取り組んでいて非常に好感がもてる。 ・気持ちの良い挨拶をしてくれ、学校生活の充実ぶりが伝わってくる。 ・少人数の校舎になったが、きめ細かな指導がなされていることが生徒の様子からよく分かる。